

ブルガリア月報 [2018年8月]

平成30年9月
在ブルガリア日本国大使館

概観

【二国間関係】

- ・20日、山中伸弥京都大学 iPS 細胞研究所所長がブルガリア科学アカデミーから名誉博士号を授与され、同アカデミーにおいて記念講演会を開催した。

【内政・社会】

- ・8月は国民議会休会。
- ・11日付「24チャーサ」紙インタビューにおいて、カラカチャノフ副首相兼国防大臣が有志による兵役制度導入に言及。
- ・31日、25日にスヴォゲにおいて発生したバス事故を理由に、モスコフスキ運輸・IT通信大臣、ナンコフ地域開発・公共事業大臣、及びラデフ内務大臣が辞表を提出。

【外 政】

- ・2日、イリンデン蜂起115年記念式典がブラゴエフグラッドで開催され、ボリスフ首相及ザーエフ・マケドニア首相がそろって出席した。その2日後となる4日、ザーエフ首相が「イリンデン蜂起はマケドニアのものである」と発言したため、ブルガリア側の反発を招き、ザーエフ首相は、発言は不注意によるものであったと釈明した。
- ・23日、ウェーバー欧州人民党党首がブルガリアを訪問し、ボリスフ首相とともに黒海沿岸のブルガリア・トルコ国境を視察した。

【経 済】

- ・ブルガリア国立銀行は、2018年の経済成長見通しを3.9%とした。
- ・ブルガリア国鉄旅客部門は、列車42編成の入札を開始した。予定価格は6億7500万レヴァ。

この月報はブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

二国間関係

◆山中伸弥京都大学 iPS 細胞研究所所長のブルガリア科学アカデミー名誉博士号授与及び講演会の開催

▶2012年ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥京都大学 iPS 細胞研究所所長はブルガリアを訪問し、20日、ブルガリア科学アカデミーで名誉博士号を授与され、「iPS細胞による医

療の幕開け」と題する記念講演会を開催した。

▶山中教授の講演では、自身の研究の歴史を振り返りつつ、iPS細胞の特徴やこれによる再生医療と治療薬の臨床応用に向けての研究について説明があった。

内政

◆カラカチャノフ副首相兼国防大臣インタビュー（有志軍の提案他）

▶11日、カラカチャノフ副首相兼国防大臣は「24チャーサ」紙に対するインタビューにおいて、軍の近代化や有志による兵役制度の提案等を行った。なお、「24チャーサ」紙によれば、有志による兵役とは、ボランティアとして6-9か月間の軍事訓練を受けた後、予備役に入ることとされ、カラカチャノフ大臣はこれを徴兵制回帰への一歩と捉えている。

▶内政に関して、カラカチャノフ大臣は、連立与党である統一愛国者内の意見の相違やスキャンダルについて問われ、統一愛国者内には、2016年大統領選挙に向けた連立創設時から連立内の2党間には伝統的闘争があるが、政権の安定性を脅かすものではないと述べ、2019年の地方選挙及び欧州議会選挙には統一愛国者として臨むべきと考えていると述べた。

▶カラカチャノフ大臣は、有志による兵役制度については、詳細については9月中旬に説明する予定と述べ、有志による兵役制度を徴兵制に回帰するためのステップと捉えていると述べた。カラカチャノフ大臣は、2007年に広い議論なく徴兵制を廃止したという間違いが、現在の軍の不完全さ及び職業軍人の募集に際する失敗をもたらしたと述べた。

◆3大臣による辞表提出

▶31日、モスコフスキ運輸・IT通信大臣、ナンコフ地域開発・公共事業大臣、及びラデフ内務大臣は辞表を提出した。

▶31日午前、臨時閣議が開催され、ポリソフ首相は、8月25日に発生したバス事故（犠牲者17人、負傷者20人以上）を理由に、モスコフスキ大臣、ナンコフ大臣及びラデフ大臣の辞任を要求した。これを受け、3大臣は辞表を提出した。

▶ナンコフ大臣及びラデフ大臣は、閣議後に記者会見を開いた。両大臣は、今回の辞任は野党の要求によるものではなく、モラルある人間として責

任をとったためであるとし、バス事故発生の翌日26日の閣僚評議会臨時会合において、辞任する容易がある旨すでに言及していたと説明した。

▶ナンコフ大臣は、3大臣の具体的な辞任理由は、省庁間における交通安全に関する調整及びコミュニケーションの悪さであったと述べた。ラデフ大臣は、我々が省庁間における調整を怠ったことは明らかであり、本バス事故に至ってしまったとした。

社会

◆スヴォゲにおけるバス事故の発生

▶25日、午後5時頃、ソフィアから約20キロメートル北に位置するスヴォゲ近郊で、走行中のバスが崖から転落する事故が発生した。バスは貸切りで日帰り旅行の帰路にあり、17人が死亡、20人以上が重軽傷を負った。

▶本事故の原因として、運転手の過失、車両の整備不良、劣悪な道路状況等が考えられているが、実際の原因は究明中である。本事故を受け、ブルガリア国内における道路整備状況の悪さに関する議論が持ち上がった。また、交通事故及び道路整備の所轄省庁である運輸・IT通信省、地域開発・公共事業省、内務省の大臣が辞表を提出する結果となった。

外交

1. 対EU関係

◆ザハリエヴァ副首相兼外務大臣のEU非公式外務理事会出席

▶30-31日、ザハリエヴァ副首相兼外務大臣は、ウィーンで開催されたEU非公式外務理事会（Gimnich）に出席した。

▶中東情勢に関するセッションにおいてザハリエヴァ大臣は、EUは中東プロセスにおいてより積極的にイニシアティブを発揮し、2国家の原則に基づいて穏やかな空気を作りだすべきであるとした。更に同大臣は、8月10日の停戦合意に関する、ニコライ・ムラデノフ国連特別調整官の果たした役割について言及した。また同大臣は、イド

リブ情勢について、市民の犠牲者が出ないように、また市民のインフラが破壊されないようあらゆることをすべきであると呼びかけた。

▶南東欧に関するセッションにおいてザハリエヴァ大臣は、ブルガリアEU議長国が西バルカン地域の欧州統合について目に見える成果を上げたことが賞賛されたとし、オーストリア、ルーマニア及びクロアチアEU議長国において、西バルカン諸国の欧州統合というテーマが継続されることが再確認されたとした。

◆ウェーバー欧州人民党党首のブルガリア訪問

▶23日、ウェーバー欧州人民党党首はブルガリアを訪問し、ボリスフ首相とともに黒海沿岸の町レゾヴォのブルガリア・トルコ国境を視察した。本視察には、シメオノフ副首相及びラデフ内務大臣が同行した。

▶ボリスフ首相は、ブルガリアは空路及び海路においてシェンゲン領域に参加すべきであると述べ、ウェーバー党首はこれを支持するとした。

▶ウェーバー党首は、ブルガリアは要件を満たしており、遅滞なくシェンゲン領域に参加すべきであると、より早期に同領域に参加したいいくつかの国よりも良い国境管理を行っているとした。また同党首は、独、仏、蘭等ブルガリアの同領域参加に懐疑的である国は、この数年間でどれほどのことを成し遂げたか見に来ると良いと述べた。

▶ボリスフ首相は、トルコとの合意は大変良く機能していると、ウェーバー党首は、ボリスフ首相のリーダーシップ及び同首相とエルドアン大統領との良好な関係を賞賛した。

▶ボリスフ首相は、ブルガリアは陸路のシェンゲン領域参加についても準備が整っているが、例えば政権が交代し、移民・難民の波を抑えられなくなり独、蘭等に押し寄せることを考えると、ブルガリアの参加に懸念を持つ気持ちも理解できると述べた。

2. 対バルカン諸国関係

◆イリデン蜂起115年記念式典へのブルガリア及びマケドニア首相の出席

▶2日、ボリスフ首相及びザーエフ・マケドニア首相は、ブルガリア南西部ブラゴエフグラッドにおいて開催されたイリデン蜂起115年記念式典に出席した（イリデン蜂起は、1903年8月2日聖イリンの日に、当時オスマン帝国統治下にあったマケドニアで起きた反オスマン帝国の蜂起）。イリデン蜂起の共同式典開催は、ブルガリア・マケドニア善隣友好条約署名以後、昨年に引き続き2回目。

▶ボリスフ首相は、式典において、火薬庫であったバルカン諸国は繁栄する地域になりつつあると述べた。同首相は、昨年、両国は勇気をもって善隣友好条約に署名し、我々は冷静な外交を展開してきたと述べ、チプラス・ギリシャ首相及びザーエフ首相に対し、マケドニア国名問題が早期に解決する見込みであることに祝意を表明した。更に同首相は、マケドニアのEU及びNATO加盟への支持を再確認した。

▶ザーエフ首相は、一年前に署名したブルガリア・マケドニア善隣友好条約の重要性を強調し、マケドニアにとって重要な時にブルガリアから手が差し伸べられたのであり、同条約がなければ、ギリシャとの国名問題に関する条約にも到達せず、EUの加盟交渉開始時期もNATO加盟招請も得られなかったであろうと述べた。更に同首相は、これらマケドニアの進展の根本には、ボリスフ首相の存在があるとし、謝意を表明した。

◆イリデン蜂起に関するザーエフ・マケドニア首相及びボリスフ首相の発言

▶4日、ザーエフ・マケドニア首相がマケドニアのテレビ取材に応じ、「イリデン蜂起はマケドニアのものである」と発言した。同発言は、ブルガリアにおいて、ブルガリア・マケドニア共通の歴史として認識されているイリデン蜂起を、ザーエフ首相がマケドニア固有の歴史と主張していると捉えられ、ボリスフ首相がコメントする事態に

発展した。

▶ザーエフ首相は、次のように発言した。「イリデンは我々の誇りである。なぜならイリデン蜂起はマケドニアの蜂起だからである。ブルガリア市民がこの蜂起をブルガリアのものと感じるならそれも構わない。これは我々の歴史の一部であり、私にとっては問題ない。しかし、私はブルガリアのゴツェ・デルチェフ像の前でイリデンに言及した最初のマケドニア首相となったことを誇りに思っている。これは大きな前進であり、以前は考えもしなかったことだ。」

▶ザーエフ首相の発言に対し、ボリスフ首相は次

のとおり応じた。「そのようなことを言うならば、もしそれが不注意であったとしても、発言には責任を負うことになる。EU加盟の時が来たとき、我々も賛成票を投じなければならないが、きっとこのことを思い出すだろう。」

▶ボリスフ首相の発言を受け、ザーエフ首相は、自身の発言が不注意によるものであり、間違いであったとし、マケドニアはブルガリアとの協力及び友好関係を欲しており、だからこそ善隣友好条約に署名したのだと述べ、騒動は一応の収束を見た。

経 済

1. マクロ経済

◆月額平均給与の上昇

▶11日付け国内紙は、6月の平均純月額給与は1119レヴァとなり、昨年同時期より9%上昇したとの国家統計局の発表を掲載した。第2四半期の純月額給与は1125レヴァであり、本年第1四半期より4.5%上昇し、昨年同期より8.2%上昇している。

▶IT及び情報通信部門が最も月額給与が高く、2663レヴァとなっており、またホテル・飲食業部門が最も低く、697レヴァであった。

◆第2四半期の失業率は5.5%

▶14日、国家統計局の発表によると本年第2四半期の失業率は5.5%となり、失業者は18万2200人であったことが明らかとなった。2017年第2四半期から0.8%の下落であった。

◆ブルガリアのインフレ率は欧州2番目の高さ

▶17日のユーロスタットの発表によれば、本年7月の前年比インフレ率はEU圏で2.2%、ユーロ圏で2.1%であった。ブルガリアのインフレ率は3.6%であり、EUではルーマニア(4.3%)に続く2番目の高さであった。もっとも低かったのはギリシャの0.8%であった。

◆2018年の経済成長見通しは3.9%

▶28日付け国内報道によれば、ブルガリア国立銀行(中央銀行)は、2018年の経済成長見通しを3.9%に下げた。多くの専門家の見通しは4.2%であるが、予想以上に輸入が拡大していることが引き下げの理由である。

▶ブルガリア経済の成長要因は投資と国内消費であるが、輸出の拡大は予想されているものの、輸入と比較すれば輸出の拡大は比較的穏やかとなっている。また物価上昇も想定より早くなっている。いずれにしても今後2年間の経済成長見通しは4%前後となっているが、長期的には高齢化社会と人口減少による消費の減少がこの国に影を落としている。

2. 経済政策, 産業

(1) エネルギー関連

◆マリツァ・イースト第2火力発電所の経営状況

▶2日の報道によれば、2018年前半のマリツァ・イースト石炭火力発電所の事業収入は2億8770万レヴァであり、昨年前半より3%減少したことが明らかとなった。本年は6月末時点まで357万7585メガワット/時の電力の販売を行い、昨年同時期の397万876メガワット/時より9.9%の減少となった。なおそのう

ち自由市場への電力販売は294万8828メガワット／時であり、昨年同時期より9.82%減少しているが、全電力販売額の82.43%を占めている。

▶18年前半の損失は総額約1億1600万レヴァであり、昨年前半6月末時点の赤字3616万レヴァよりも更に7985万レヴァ分赤字が膨れあがった。赤字は2012年以降の規制改革が主な要因になっており、特に炭素ガスの排出権取引のコストが3倍程度になったことや電力安全保障基金への拠出といった発電コストの上昇が指摘されている。

◆トルコに接続する天然ガス・パイプラインの延長

▶3日、ボリソフ首相はトルコに繋がる天然ガス・パイプライン延長の開通式に出席した。今回開通した接続管はロゼネッツの圧縮ステーションからネデリヤルスコのメンテナンス設備までの約20キロであり、ボリソフ首相は、本件接続管は両方向の輸送が可能であり、トルコ方面に160億立米、ブルガリア方面に157億立米の輸送が可能となっている等挨拶を行った。

▶またボリソフ首相は今回のパイプラインの建設に当たって欧州の基準を満たしており、トルコストリームからブルガリアのバルカン・ガスハブを経由し、セルビア、マケドニア、オーストリア及びハンガリーにパイプラインを延長することについてトルコやロシア、欧州委員会と合意ができていないことに言及しつつ、送電線についても同じくトルコの他、地域全体の利益のために建設したいとした。

◆中国原子力関連各社のベレネ原発予定地訪問

▶28日、中国国家能源局（National Energy Administration）の関係者がベレネ原発建設予定地を訪問したことがエネルギー省により報道発表された。中国より国家核集団（CNNC）、広核集団（CGN）、国

家核電技術公司（SNPTC）も併せて訪問した。
▶今回の訪問は、7月の李国務総理のブルガリア訪問時に作成された原子力の平和利用に関するMOUに従って行われたものであり、中国側はベレネ原発の建設予定地について現在のインフラを確認した。

▶また29日には中国の代表団はペトコヴァ・エネルギー大臣と面会し、同大臣からブルガリアのエネルギー分野の概要を説明しつつ、原発建設にかかる議論が話題の中心になった。

（2）運輸・交通

◆ブルガリア北部の道路開発

▶14日、ナンコフ地域開発・公共事業大臣はブルガリア北部のゴルナ・オリャホビツァとアルバナシ間の道路修復工事の完成式典に出席し、今後のルセとヴェリコ・タルノボ間の道路建設や汎欧州回廊9号線、ルセに建設が検討されているドナウ川第二架橋等の計画を考えれば、ドナウ川に更なる橋を架けることが必要であるとの見解を示した。

▶また同大臣は、ルセとヴェリコ・タルノボ間の道路については民間投資が一部投入されることも可能であるとした。ブルガリア北部のインフラ開発については優先的に資金が利用されることになっているが、同時に地域全体の道路については数億ユーロと見積られる中国の民間資金も検討されているとした。ナンコフ大臣は、中国の投資家との協議は非常に進んでおり、そのうち2社が大きな関心を示していると言及した。

◆ブルガリア国鉄による列車入札

▶17日、ブルガリア国鉄（BDZ）旅客部門は、列車42編成の購入・メンテナンスの入札を開始した。予定価格は6億7500万（VAT抜）レヴァである。応札締切りは10月12日であり、発表は10月15日に行われる予定である。

(3) その他

◆中国による中東欧諸国への資金投入

▶15日の経済省の発表によれば、中国・中東欧投資協力基金が、中東欧諸国で10億ドルの投資を行う見込みであるとのことである。本件は、13日マノレフ経済副大臣と中国輸出入銀行のSun・Guaying投資運営局次長との会談で明らかになった。

▶同基金は既に8億ドルの資金を受けとっているが、これまで4億3500万ドルがブルガリアを含む中東欧5か国に投入されている。

◆バルカン6か国の食料品・サービス価格調査

▶17日付け国内紙によれば、バルカン諸国6か国ではブルガリアとギリシャが最も食料品とサービスの価格が高いとの調査結果が発表された。これはブルガリア、ルーマニア、セルビア、ギリシャ、トルコ、マケドニアの食料品とサービスの価格調査であるが、ギリシャが最も高く、ブルガリアよりも平均52%高くなっている。例えば電気・水道等にギリシャは毎月平均で143ユーロ支払っている。

▶また最も生活費が安かったのはマケドニアであり、スーパーマーケットの支払に毎週最大で15

ユーロ程度しか支払っていない。ルーマニアにおける食料品・サービスの価格はブルガリアより若干安い程度であり、トルコについてはブルガリアより10%程度安くなっている。

◆フィナンシャル・タイムズがブルガリアに技術オフィスを設置

▶21日付け経済省の報道発表によれば、フィナンシャル・タイムズ(FT)はブルガリアにIT開発センターを設置するため投資を行うことになった。本件は同日行われたマノレフ経済副大臣とクンダート・フィナンシャル・タイムズ技術部長との面会で明らかになった。同社はまず英国企業であるズームワークス・テクノロジー社と協力してブルガリアに技術チームを立ち上げ、これを1年以内に100人規模に拡大する見込みである。

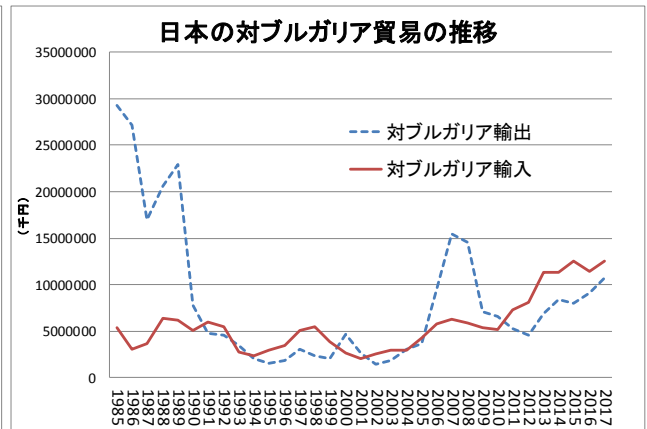
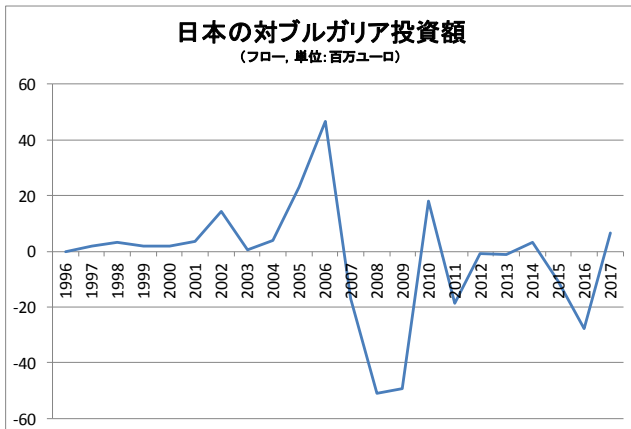
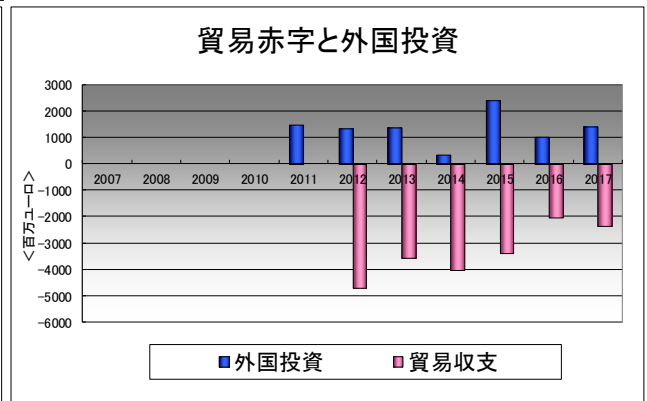
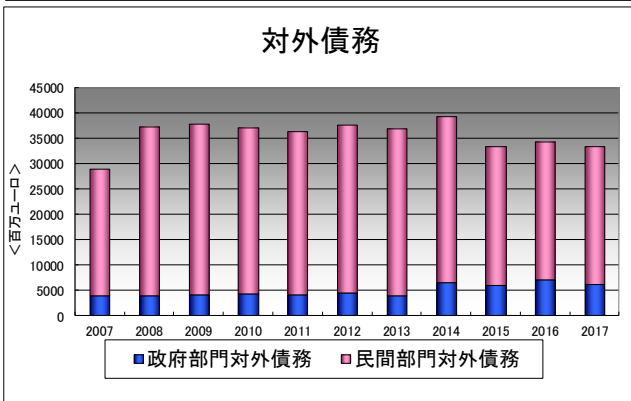
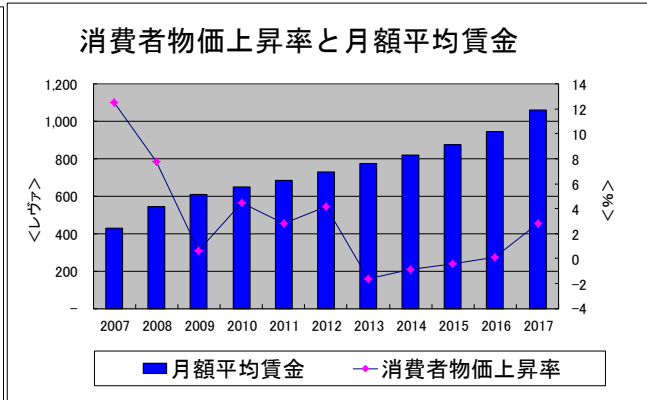
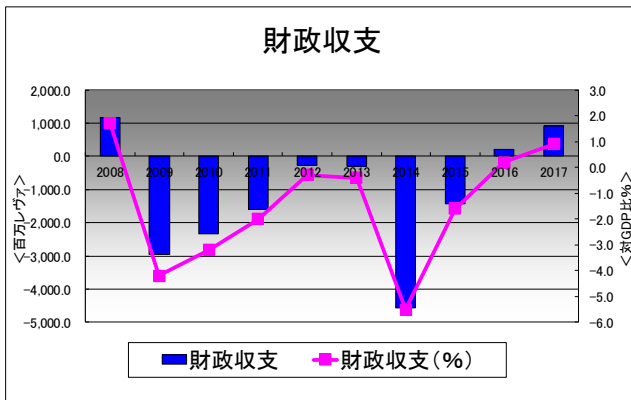
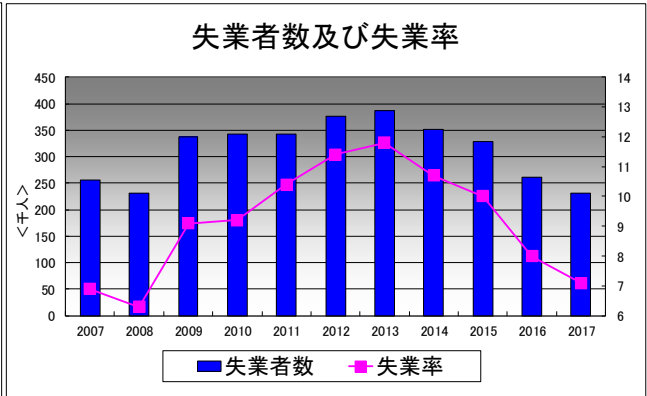
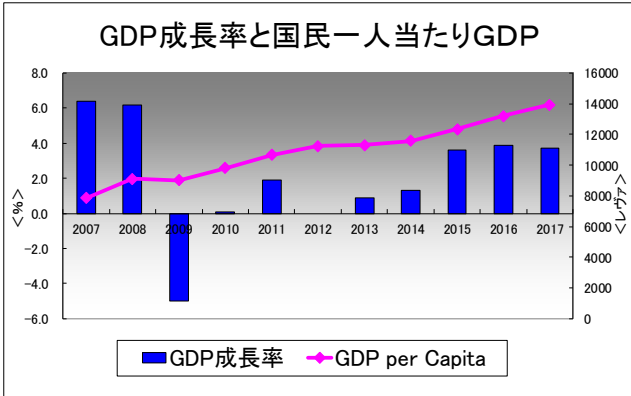
▶マノレフ副大臣は、FTのような企業がブルガリア市場に参入するのはブルガリア経済が好調なことを示すものであり、ブルガリアのIT分野が成長している証拠であると強調した。クンダート部長は、ブルガリアに同センターを立ち上げることになったのは当地パートナーであるズームワークス社がいたからだけでなく、FTが必要とするIT技術者が雇用できる見通しがあったからであると述べた。

ブルガリア内政・外交の動き（8月）

在ブルガリア大使館

1（水）	
2（木）	★イリンデン蜂起115年記念式典の開催（於：ブラゴエフグラッド）
3（金）	
4（土）	
5（日）	
6（月）	
7（火）	
8（水）	
9（木）	
10（金）	
11（土）	
12（日）	
13（月）	
14（火）	
15（水）	
16（木）	
17（金）	
18（土）	
19（日）	
20（月）	●山中伸弥京都大学 iPS 細胞研究所所長のブルガリア科学アカデミー名誉博士号授与及び講演会の開催
21（火）	
22（水）	
23（木）	★ウェーバー欧州人民党党首のブルガリア訪問
24（金）	
25（土）	●スヴォゲにおけるバス事故の発生
26（日）	
27（月）	
28（火）	
29（水）	
30（木）	☆ザハリエヴァ副首相兼外務大臣のEU非公式外務理事会出席（-31日，於：ウィーン）
31（金）	●3大臣による辞表の提出

ブルガリア経済指標の推移 (出典：国家統計局，中央銀行，財務省（日本）貿易統計)



ブルガリア主要経済指標 (出典: 中央銀行)

< GDP成長率と国民一人当たりGDP >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Q1	Q2		
GDP成長率 (%)	1.9	0.0	0.9	1.3	3.6	3.9	3.7	3.5	2.6		
GDP per Capita (BGN)	10,673	11,229	11,310	11,577	12,339	13,206	13,939				

< 財政収支 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Q1			
財政収支 (million BGN)	-1,589.7	-262.5	-296.3	-4,560.7	-1,420.7	208.8	920.3	722.7			
財政収支GDP比 (% of GDP)	-2.0	-0.3	-0.4	-5.5	-1.6	0.2	0.9	0.7			

< 失業者数及び失業率 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug
失業者数 (千人)	342	376	386	351	329	261	232	237	231	222	211	200	189	186	184
失業率 (%)	10.4	11.4	11.8	10.7	10.0	8.0	7.1	7.2	7.0	6.8	6.4	6.1	5.7	5.7	5.6

< 消費者物価上昇率と月額平均賃金 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug
消費者物価上昇率 (%) (前期比)	2.8	4.2	-1.6	-0.9	-0.4	0.1	2.8	0.3	0.3	-0.3	0.4	0.3	0.1	0.7	0.1
月額平均賃金 (BGN)	686	731	775	822	878	948	1,060	1075	1049	1107	1145	1110	1119		

< 対外債務 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2017 Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul
政府部門対外債務 (million EURO)	4,205.0	4,578.9	4,062.2	6,552.0	5,989.5	7,228.8	6,327.7	6,271.8	6,243.5	6,224.2	6,236.3	6,213.4	6,183.3	6,189.5
民間部門対外債務 (million EURO)	32,089.8	33,134.6	32,873.4	32,786.4	27,506.6	26,992.6	27,069.6	27,143.6	27,158.2	27,080.8	27,010.3	26,999.2	27,292.5	27,458.4

< 対内直接投資と貿易収支 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul
対内直接投資 (million EURO)	1,476.3	1,320.9	1,383.7	347.4	2,399.1	1,003.3	1,389.6	253.5	228.2	-3.2	2.3	73.8	276.7	219.9
貿易収支 (FOB-CIF) (million EURO)		-4,688.9	-3,556.6	-4,020.7	-3,374.3	-2,055.3	-2,369.8	-444.3	-371.3	-346.2	-411.2	-441.6	-445.4	-379.9
輸出 (FOB) (million EURO)		20,770.2	22,271.5	22,104.9	22,982.3	24,126.0	27,915.8	2,142.4	1,964.8	2,273.5	2,134.3	2,201.6	2,367.9	2,491.4
輸入 (CIF) (million EURO)		25,459.1	25,828.1	26,125.7	26,356.6	26,181.3	30,285.6	2,586.7	2,336.1	2,619.7	2,545.5	2,643.1	2,813.3	2,871.3